

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成28年7月）

1 内政

（1）大統領罷免国民投票に関する動き

ア 7日、ルセナ全国選挙評議会（CNE）委員長が、会見を開いたが、大統領罷免国民投票のプロセスに関する発表はなく、野党のCNEに対する言動を非難するのみだった。

イ 19日、野党連合MUDは、ロンドンCNE委員（野党系）に、指紋認証の確認、次のステップの公表を早急にするように求める意見書を手交するとともに、27日、CNE本部へ向けデモを実施し、国民投票実施の要請書を提出すると表明した。

ウ 26日、CNEは、1%の署名の指紋認証の確認結果の発表を、8月1日に延期するとのコミュニケを発出した。ルセナCNE委員長は、27日の野党によるデモにおいて暴力行為があれば、選挙プロセスを停止すると発言した。

エ 26日、ロドリゲス・リベルタドル市長は、不正な署名を集めることは違憲であるとして、野党連合MUDの政党取り消しをCNEに要請した。

オ 27日、野党連合MUDは、CNE本部に向け、プロセスの迅速化を求めるデモを実施。同日、与党も、MUDの活動に反対する集会を実施。双方がCNE本部に向かおうとしたが、国家警察や国軍に阻止された。

（2）与野党間対話

ア 7日、野党連合MUDは、対話へ応じるための5つの条件（①バチカン・OAS・他国の元大統領からの仲裁者を加えること②対話はドミ共では行わず、会場もその都度変更すること③国民投票へ向けたプロセスへの妨害工作などを今後受け入れないこと、国民投票やそのほかの選挙のスケジュールを確定すること④不当な逮捕を止め、政治囚を釈放すること⑤国会の尊重）をコミュニケにおいて発表し、サパテロ・スペイン前首相等に提出した。

イ 11日、カラカスを訪問中のサパテロ・スペイン前首相、トリホス・パナマ元大統領は、野党連合MUD国会議員、カベージョ国会議員（与党PSUV）と個別に会談した。

13日には、マドゥーロ大統領が、同前首相と会談した。

ウ 12日～14日、政府は、バチカン代表とOAS代表の仲裁団への追加、国会の尊重、36人の政治囚の釈放を受け入れたが、レオポルド・ロペス大衆意志党党首、レデスマ・カラカス大市長、マヌエル・ロサレス元スリア州知事の釈放、年内の国民投票の実施は拒否した。

エ 21日、アルプ国会議長は、18日、マドゥーロ大統領による与野党間対話への呼びかけに応じるように要請するサンペールUNASUR事務局長の書簡を受領したことを公

表した。

オ 21日、サンペールUNASUR事務局長、サパテロ・スペイン前首相、フェルナンデス・ドミニカ共和国前大統領、トリホス・パナマ元大統領は、ベネズエラを再訪し、政府（マドゥーロ大統領、ロドリゲス外相）、野党連合MUDと個別に会談した。

カ 22日、野党連合MUDは、コミュニケを通じて、国民投票の実施、20%の署名集めの日程を要求した。これに対し、23日、ロドリゲス外相は、「野党連合MUDが、国民投票について討議するつもりならば、彼らの数え切れない不正行為を公表する。」と発言した。

（3）最高裁判事

ア 14日、国会は、客年の特別国会における34人の現最高裁判事の任命の無効は無効であるとの決議を採択した。15日、与党は、国会に判事を解任する権限はないとして、最高裁に同決議の無効を訴えた。

イ 19日、最高裁は、国会が、客年12月の34名の最高裁判事の任命は無効であると決議したことに関し、同決議を無効とする判決を下した。

ウ 20日、国会は、最高裁による判決を無視し、新判事の選定に向けて準備を進めると表明した。

（4）アマソナス州等当選保留国会議員

ア 21日、アマソナス州等で当選が保留となっている4名の野党国会議員のうち3名の国会議員が、国会への参加を求め、最高裁選挙法廷の判事5名の解任を訴えた。

イ 28日、当選が保留となっている野党の国会議員3名が、国会に出席した。

ウ 29日、エクトル・ロドリゲス与党会派 GPP 院内総務等チャベス派議員は、国会復帰と宣誓は無効であるとして最高裁に訴えた。

（5）コロンビア国境

ア 6日、コロンビアとの国境に接するタチラ州において、約500名のベネズエラ人（ほぼ女性）が、軍の制止を振り切り、コロンビアへ入国し、食糧や医薬品を購入した。

イ 10日、35,000人以上のベネズエラ国民が、2015年8月以来、一時的に開放された（午前6時～午後6時まで）タチラ州の国境を通過し、食料や医薬品を購入した。また、アプレ州でも国境が開放された。

ウ 16日、17日、コロンビア（San Antonio, Ureña と Boca de Grita）との国境が一時的に開放され、2日間合計で、約13万人が国境を越え、生活必需品を購入した。

（6）その他政府・与党の動き

ア 5日、マドゥーロ大統領は、独立記念日の軍事パレードに出席した。

イ 7日、国軍の人事が発表され、パドリーノ国防大臣の留任が決定され国家警備軍司令

官には、アントニオ・ベナビデスが任命された。

ウ 11日、マドゥーロ大統領は、国家主導安定的供給ミッション（Gran Misión Abastecimiento de Soberano y Seguro）の創設を発表した。同ミッションは、大統領の指示の下、パドリーノ国防大臣が主導する。

エ 13日、政府は、経済非常事態宣言を60日間延長すると官報にて発表した。

オ 18日、チャベス派内の反マドゥーロ派が、「チャベス主義・左派による闘争団体」を発足させるとともに、CNEに対し、大統領罷免国民投票のプロセスに対する妨害を非難する意見書を提出した。

（7）その他国会・野党の動き

ア 5日、国会において、独立記念日式典が開催されたが、マドゥーロ大統領、最高裁、全国選挙評議会（CNE）等の代表は出席しなかった。

イ 28日、国会は、8月15日までの通常国会終了後、臨時国会を召集し、最高裁判事34名の募集、2016年で任期を満了する全国選挙評議会（CNE）委員2名（ソコーロ・エルナンデス、タニア・ダメリオ）の交代のための委員会の設置について審議する予定であると表明した。

（8）その他

ア 26日、シリア・フローレス大統領夫人の甥2名の麻薬取引に関する裁判において、客年、同甥2名が、米国麻薬取締局（DEA）の協力者（客年、ホンジュラスにおいて殺害された）に、90万米ドル支払い、彼らに有利になるように取引を手配していたことが明らかになった。

2 外交

（1）メルコスール

ア 5日、セーハ・ブラジル外相は、ベネズエラが7月にメルコスール議長国を引き継ぐことについて、その決定を8月まで延長するように要請した。同日、ロドリゲス外相は、同要請は、無礼で非道徳的であると反発した。ウルグアイ（現議長国）は、ベネズエラへ引き渡す意思を表明。アルゼンチンは、ウルグアイの延長もしくはベネズエラを飛ばしてアルゼンチンが議長国となることを要請。パラグアイは、引き続き議論することを要求。

イ 11日、メルコスール外相会談がモンテビデオにおいて行われたが、ベネズエラへの議長国引き渡しについて、決定事項はなかった。ロドリゲス外相は、モンテビデオに到着していたが、出席を許可されず、各国の態度を非難した。

ウ 26日、ニン・ノボア・ウルグアイ外相は、30日にメルコスール会合を招集したが、ブラジルとウルグアイが出席しないため、中止すると発言した。

エ 29日、ウルグアイは、メルコスール加盟国に対し、議長国の任期を終了したとする外交文書を発出した。

オ 30日、ロドリゲス外相は、ウルグアイが議長国の任期を終了したとの通知を受け、メルコスール加盟国にベネズエラが議長国に就任する旨の書簡を発出したが、ロイサガ・パラグアイ外相は、ベネズエラ外務省より、同書簡を受け取ったが、一方的なものであり、アルゼンチンが代わりに引き継ぐべきであると発言した。

(2) 対米

ア 6日、米国下院は、ベネズエラに対する制裁措置（一部政治家の米国内での資産凍結、ビザ発給停止等）を延長することを決議した。7日、ベネズエラ外務省は、かかる決議は、一方的で、不当であり、国際法を侵害しているとするコミュニケを発出した。

イ 7日、米務省は、ベネズエラへの渡航について、警戒を呼びかける内容に更新した。8日、ベネズエラ外務省は、同更新を非難するコミュニケを発出した。

ウ 14日、マルコ・ルビオ上院議員は、「ベネズエラは、マドゥーロ大統領の失政と弾圧的な政策により、危機的状況に陥っている。」と発言した。

エ 28日、カービー米務省報道官が、大統領罷免国民投票の遅延を非難する発言をしたのに対し、ロドリゲス外相が、介入主義であると反論した。

(3) 国連

ア 12日、ロドリゲス外相が、国連において、潘基文国連事務総長とガイアナとのエセキボ地域を巡る領有権問題について協議し、国連による仲介の仕組みに期待したいと発言した。

イ 19日、国連人権高等弁務官事務所は、ベネズエラ政府に対し、国連による人道支援を受け入れるように要請した。

ウ 22日、米州人権委員会は、ベネズエラ政府に対し、食糧・医薬品不足を解決するための緊急対策を取るよう要求した。また、潘基文国連事務総長に対し、国連食糧農業機関（FAO）や国連開発計画（UNDP）の静観している姿勢を非難する文書を送付した。

(4) その他

ア 27日～28日、ロドリゲス外相が、フランス、イタリア、ポルトガルを訪問し、エロー・フランス外相、ジェンティローニ・イタリア外相、サントス・シルバ・ポルトガル外相と二国間協力等について協議した。